

明恵上人樹上坐禪(樹上で座禪する明恵の絵画)

明恵(1173~1232年)は、高山寺近くの楞伽山の二股に分かれた松の木でしばしば坐禪をしていた。この木には「繩床の樹木」・「繩床樹」という名称があった。現在、その場所には小さな石塔が佇んでいる。

最も有名な明恵の肖像画では、木の幹で坐禪している姿が描かれている。彼は、藤、鳥、岩、木、リスの真ん中で穏やかに座っている。この絵は明恵の自然への崇敬と動物への愛を捉えている。これは従者の恵日房成忍の作品とされ、13世紀のものである。

国宝である原本は、京都国立博物館で所蔵されている。石水院に展示されているものは複製である。